



# 鳥栖っ子

合言葉  
～「つなぐ」～

コミュニティスクール

鳥栖市立 鳥栖小学校  
文責 校長 古賀 康弘



“手と手をつなぎ 心をつなぎ” みんなで助け合う みんなの笑顔のために



## ★「周りの人を大切にすること、それが平和への近道」★

6年生は11月21日(火)～22日(水)、1年生～5年生までは22日(水)に、修学旅行(1年生嬉野市、2年生福岡市、3年生佐賀市、鳥栖市、4年生佐賀市、武雄市、5年生北九州市、6生長崎市)に行きました。今回は、コロナによる制限が緩和されて初めての修学旅行となりました。子供たちも引率する私達教職員も、通常通り修学旅行へ行くことができることに感謝しながら、楽しく充実した日を過ごすことができました。

特に6年生にとっては小学校最後の修学旅行でした。お天気にも恵まれ、大切な仲間と共に、原爆の悲惨さや平和の尊さ、長崎の歴史や文化を学ぶ充実した2日間となりました。

まず、原爆資料館を見学した後の原爆落下中心地での平和集会では(写真)、子供たちが整然と列をなし、係の子供の見事な進行の下、全員で平和への誓いを言いました。その後『青い空は』を全員で合唱し、千羽鶴と共に平和への祈りを捧げました。次に平和講話では、当時6歳で被爆された八木道子さんから原爆にあった日の貴重なお話をお聴きし、平和の尊さをみんなで考えるこ



とことができました。八木さんが講話の最後に「鳥栖小の多くの子供たちに話を聞いてもらって平和へのバトンタッチができてよかった。周りの人を大切にすること、それが平和への近道です。」と話されたことが、私はとても心に響きました。

その後、平和公園からスタートしたフィールドワーク1では、それぞれのグループで共に助け合いながら、自分たちが計画した目的地を巡り、平和の大切さを現地で直に学ぶことができました。私は、平和集会や平和講話での子供たちの真剣な表情やフィールドワーク1、2での子供たちのグループ活動の様子をみて、八木さんが話された平和へのバトン(「周りの人を大切にすること」)がしっかりとつながったように感じました。今回の修学旅行も6年生の子供たちと共に平和の意味を考える貴重な時間となりました。感謝。

## ★代表委員会、テーマは『鳥栖小のあいさつ…』★

児童玄関に貼り出された、「こんなあいさつができるといいね。～めざそう神レベルのあいさつ～」の掲示物。放送でも呼びかけがあり、神レベルのあいさつを目指している子供が増えました。そして、11月15日(水)に行われた第3回代表委員会でも「鳥栖小の“あいさつ”を盛り上げよう」のテーマの下、あいさつをさらに盛り上げる工夫が話し合われました。やさしさいっぱいの学校にするためにも大切なあいさつです。これから子供たちが主体的にどんな取り組みを始めるのか大変楽しみです。



お願い：12月に入ると今以上に気温が下がり、日暮れも日に日に早くなっていきます。暗くなることで下校時の危険リスクが高まります。子供たちには、『友達と一緒に下校します。身の危険を感じたら直ぐにその場を離れます。近くの家や大人の人に助けを求めます』など繰り返し指導をしています。ご家庭でも下校や帰宅について子供たちと今一度お話しください。